

証券コード6859

エスペック株式会社
2023年度(2024年3月期)
決算説明

2024年5月23日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

ESPEC CORP.

エスペック株式会社 代表取締役 執行役員社長の荒田でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、2023年度決算についてご説明いたします。

決算総括

国内のEV・バッテリー分野がけん引し、過去最高業績を更新
すべてのエリアで増収、値上げ効果もあり収益性が改善

前期比		予想比(2023年10月修正)
■受注高	○ 装置事業(環境試験器、エネルギーデバイス装置)およびサービス事業(受託試験)が増加	○ すべての事業が上回る
■売上高	○ すべての事業が増加、特に装置事業(環境試験器)が大幅増	○ すべての事業、特に装置事業(環境試験器)が上回る
■営業利益	○ 販管費は増加したが、増収および原価率改善により大幅増	○ 売上高の上振れおよび装置事業・サービス事業の原価率改善により上回る
■経常利益 親会社株主に帰属 する当期純利益	○ 営業利益の増加により大幅増	○ 営業利益の増加により上回る
■ 1株当たり配当金は、期末配当金を期初計画から5円増配(2024年5月15日発表) 年間では、中間25円、期末50円、年間75円を予定		

ESPEC CORP.

1

2023年度の決算総括といたしましては、国内のEV・バッテリー分野がけん引し、過去最高業績を更新いたしました。すべてのエリアで増収となり、また、値上げ効果もあり収益性が改善いたしました。

前期比では、受注高は装置事業の環境試験器とエネルギーデバイス装置、およびサービス事業の受託試験が増加しました。売上高はすべての事業が増加し、特に装置事業の環境試験器が大幅に増加しました。営業利益につきましては、販管費が増加しましたが、増収および、値上げ効果による原価率改善で、大幅に増益となっております。

10月に修正した業績予想に対しては、受注高はすべての事業が上回りました。売上高につきましても、すべての事業で上回り、特に装置事業の環境試験器が増加しました。営業利益につきましては、売上高の上振れ、および装置事業・サービス事業の原価率が想定よりも良かったことから上回っております。

配当につきましては、期末配当金を期初計画から5円増配し、年間では75円を予定しております。

損益の状況

	2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
受注高	59,521	61,000	62,290	+4.7%	+2.1%
売上高	52,892	58,500	62,126	+17.5%	+6.2%
売上原価 (原価率)	34,935 (66.0%)	38,000 (65.0%)	40,132 (64.6%)	+14.9% 1.4pt改善	+5.6% 0.4pt改善
売上総利益	17,957	20,500	21,994	+22.5%	+7.3%
販管費	13,590	15,000	15,408	+13.4%	+2.7%
営業利益	4,366	5,500	6,585	+50.8%	+19.7%
経常利益	4,664	5,750	6,919	+48.3%	+20.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,330	4,000	4,969	+49.2%	+24.2%
ROE	7.2%	8.1%	10.0%	+2.8pt	+1.9pt

2023年8月よりコスモビアハイテック株式会社を連結の範囲に含めています。

ESPEC CORP.

2

こちらが損益の状況です。

前期比では、受注高は4.7%増加、売上高は17.5%増加しました。
原価率については1.4ポイント改善、販管費は13.4%増加しました。
営業利益につきましては、50.8%の増加となりました。

予想に対しては、受注高・売上高ともに上回り、原価率は想定よりも
0.4ポイント改善しました。販管費はやや増加しましたが、
営業利益は、修正予想を19.7%上回ることができました。

セグメント別の損益の状況

		(百万円)				
		2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
装置事業	受注高	51,446	52,760	53,565	+4.1%	+1.5%
	売上高	45,031	50,350	53,518	+18.8%	+6.3%
	営業利益	3,919	4,980	5,848	+49.2%	+17.4%
サービス事業	受注高	6,963	7,340	7,634	+9.6%	+4.0%
	売上高	6,788	7,250	7,536	+11.0%	+4.0%
	営業利益	428	550	681	+59.3%	+24.0%
その他事業	受注高	1,469	1,300	1,453	△1.1%	+11.8%
	売上高	1,404	1,300	1,455	+3.7%	+12.0%
	営業利益	16	△30	51	+211.0%	-
連結消去	受注高	△359	△400	△363	-	-
	売上高	△330	△400	△383	-	-
	営業利益	1	△0	3	-	-
計	受注高	59,521	61,000	62,290	+4.7%	+2.1%
	売上高	52,892	58,500	62,126	+17.5%	+6.2%
	営業利益	4,366	5,500	6,585	+50.8%	+19.7%

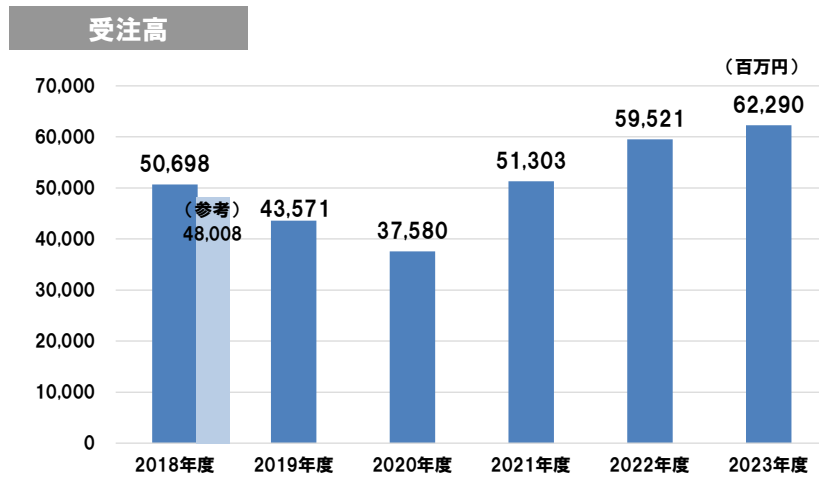
2023年8月よりコスモビアハイテック株式会社を連結の範囲に含めています。

セグメント別の実績については、ご覧のとおりです。

2023年度実績 受注高について

■ 受注高は、3期連続で過去最高更新

日本を中心に東南アジア・韓国・台湾が増加、北米は横ばい、中国・欧州は減少



※2018年度は海外子会社の決算期間が15カ月の変則決算、(参考)は12カ月であった場合の参考値

2023年度業績について、もう少し詳しく説明いたします。

受注高については、環境試験器、エナジーデバイス装置、受託試験が好調に推移し、3期連続で過去最高を更新しました。

エリアでは日本を中心に、東南アジア、韓国、台湾が増加、北米は横ばい、中国、欧州は減少いたしました。

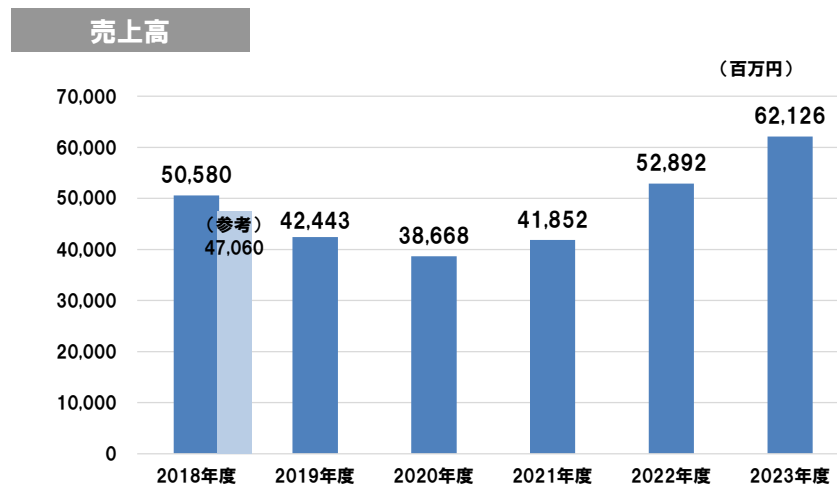
なお、為替変動によるプラスの影響が約12億円ありました。

その他、昨年9月30日に、日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社の環境試験装置事業を譲り受けたことによる影響が約18億円ございました。

2023年度実績 売上高について

■ 売上高は、2期連続で過去最高更新

すべてのエリアで増加、国内の生産対応強化により日本が大幅に増加



※2018年度は海外子会社の決算期間が15カ月の変則決算、(参考)は12カ月であった場合の参考値

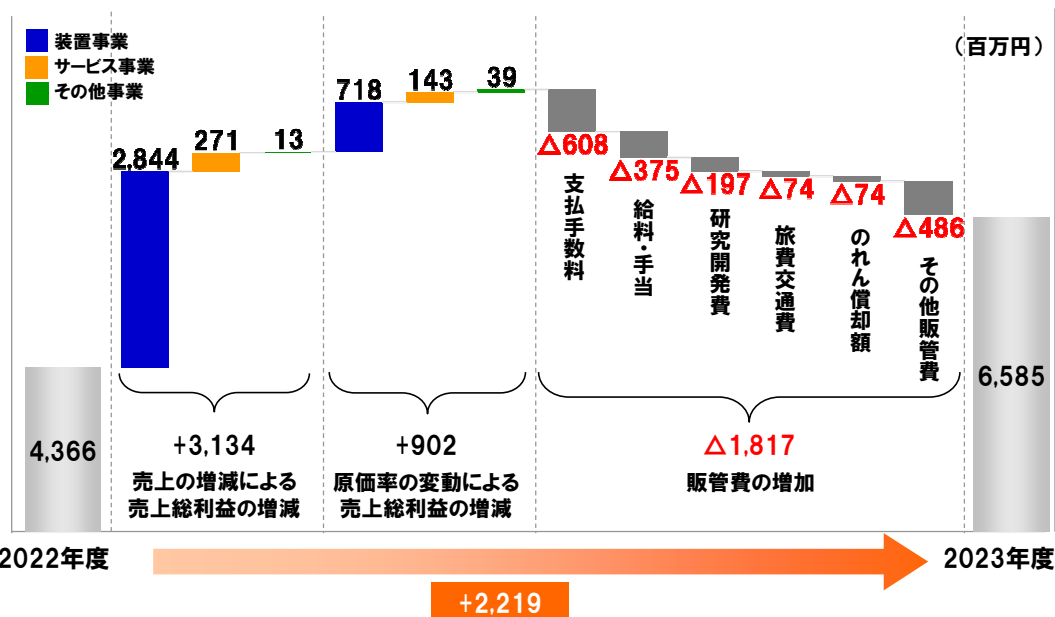
売上高につきましては、2期連続で過去最高となりました。

すべてのエリアで増加いたしましたが、生産対応強化により日本が大幅に増加しました。

なお、為替変動によるプラス影響は約13億円、事業譲り受けによる影響は約12億円ございました。

営業利益の増減要因分析

■販管費は増加したが、装置事業の増収、値上げによる原価率改善により大幅増益



ESPEC CORP.

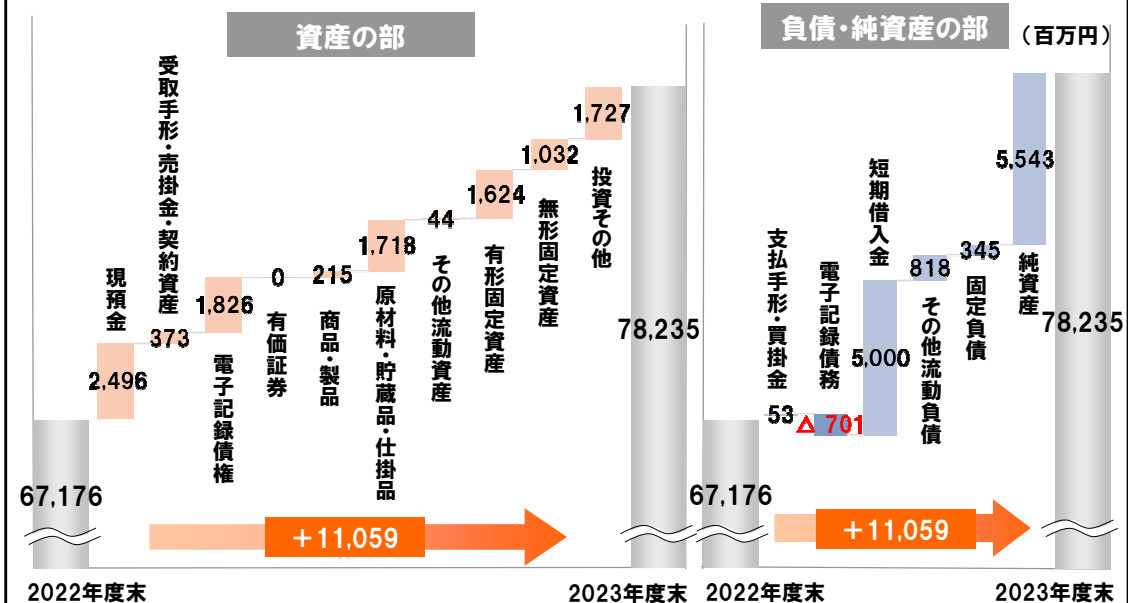
6

こちらは営業利益の増減要因分析です。

売上拡大に伴い販管費が増加したものの、主に装置事業の増収、および製品・サービスの値上げによる原価率改善により、前期比で約22億円増加いたしました。

資産・負債の状況

■売上拡大に伴う売上債権・棚卸資産の増加、および有形・無形固定資産の増加により資産は約110億円増加



ESPEC CORP.

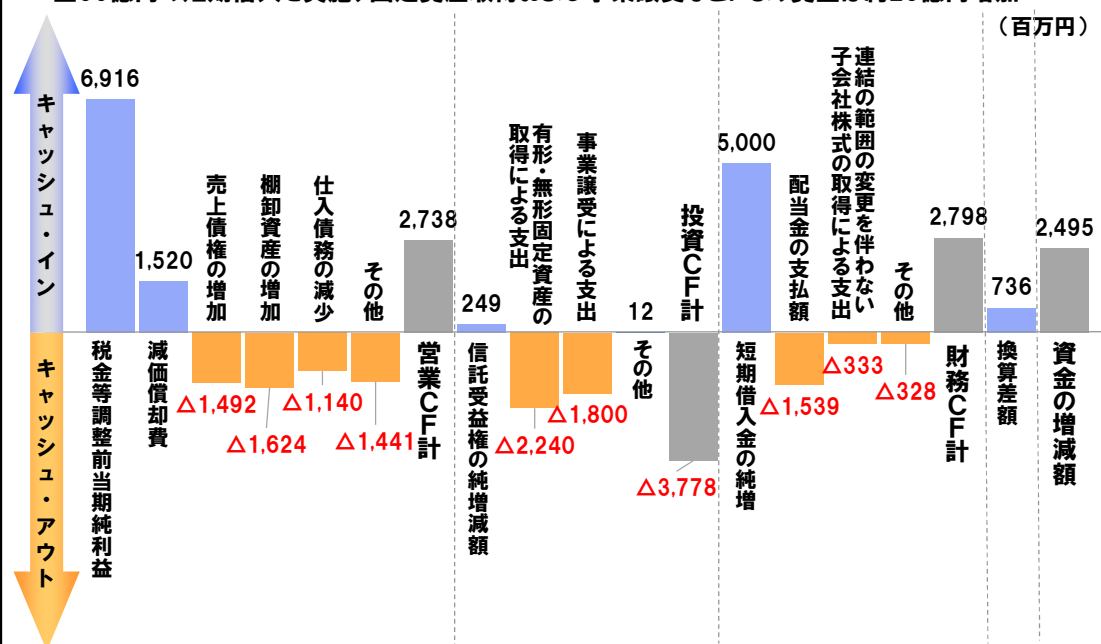
7

次に資産・負債の状況ですが、
 資産につきましては、売上拡大に伴う売上債権・棚卸資産の増加、
 有形・無形固定資産の増加により、資産は約110億円増加しました。
 なお、固定資産の増加は、新しい受託試験所開設のための土地の取得や
 事業譲り受けによるのれんの計上などによるものです。

負債につきましては、短期借入を50億円行いました。
 売上拡大に伴う運転資金の増加や、受託試験事業および事業譲り受け
 といった投資のために資金が必要となりました。

キャッシュフローの状況

■50億円の短期借入を実施、固定資産取得および事業譲受などにより資金は約25億円増加



ESPEC CORP.

8

キャッシュフローの状況につきましては、
 営業キャッシュフローは、約27億円のキャッシュイン、
 投資キャッシュフローは、固定資産取得および事業譲り受けなどにより
 約38億円のキャッシュアウト、
 財務キャッシュフローは、先ほどの通り短期借入を50億円行い、
 配当金の支払などにより、トータルでは約28億円のキャッシュインとなりました。
 以上のことから、資金は前期末から約25億円増加し、約168億円となりました。

装置事業セグメント

(百万円)

	2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
受注高	51,446	52,760	53,565	+4.1%	+1.5%
売上高	45,031	50,350	53,518	+18.8%	+6.3%
営業利益 利益率(%)	3,919 8.7%	4,980 9.9%	5,848 10.9%	+49.2%	+17.4%

環境試験器

- 国内では、受注高は汎用性の高い標準製品は前期並みとなったものの、カスタム製品はEV・バッテリーを中心に大幅に増加。
売上高は、カスタム製品への要員シフトなど生産対応を強化し、全体で増加。
- 海外では、受注高は中国および欧州が減少し、前期比で減少。
売上高は、北米、欧州、韓国、台湾、東南アジアが増加し、前期比で増加。

エネルギーデバイス装置

- EV・バッテリー向けの投資拡大により、主に国内で充放電試験用チャンバーが好調に推移し、受注高は前期比で大幅に増加。売上高は、生産体制を整備し、大幅に増加。

半導体関連装置

- 主にメモリ関連の投資抑制の影響を受け、受注高・売上高ともに前期比で減少。

ESPEC CORP.

9

つぎに、セグメント別の状況についてご説明いたします。

装置事業セグメントにつきましては、
環境試験器およびエネルギーデバイス装置が好調に推移し、
前期比で、受注高・売上高・営業利益、いずれも増加いたしました。

製品群ごとの状況はご覧の通りです。

サービス事業セグメント

(百万円)

	2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
受注高	6,963	7,340	7,634	+9.6%	+4.0%
売上高	6,788	7,250	7,536	+11.0%	+4.0%
営業利益 利益率(%)	428 6.3%	550 7.6%	681 9.0%	+59.3%	+24.0%

アフターサービス・エンジニアリング

- 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加。

受託試験・レンタル

- 車載用バッテリーを中心に受託試験が好調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加。

次にサービス事業ですが、前期比では、主に受託試験が車載用バッテリーを中心に好調に推移し、受注高・売上高ともに増加いたしました。

営業利益につきましては、主に受託試験における原価率改善により、大幅に増加することができました。

サービス群ごとの状況につきましてはご覧の通りです。

その他事業セグメント

(百万円)

	2022年度 実績	2023年度 修正予想(10月)	2023年度 実績	前期比	予想比
受注高	1,469	1,300	1,453	△1.1%	+11.8%
売上高	1,404	1,300	1,455	+3.7%	+12.0%
営業利益 利益率(%)	16 1.2%	△30 △2.3%	51 3.5%	+211.0%	-

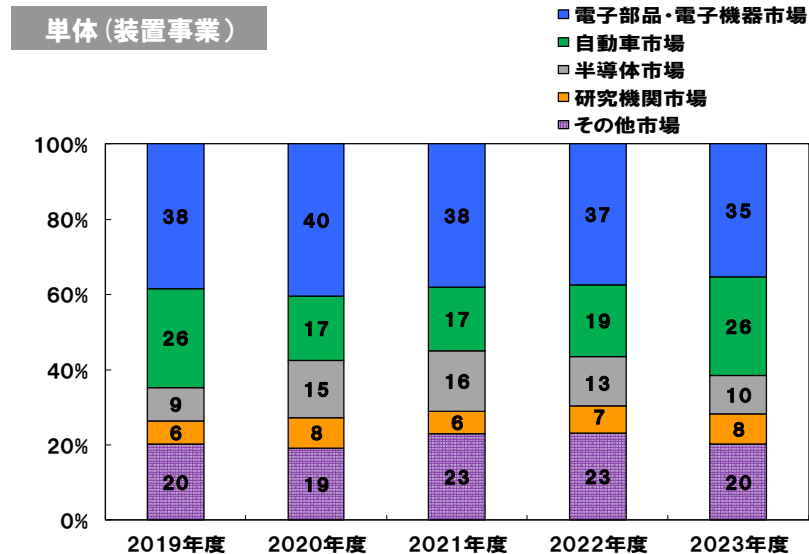
環境保全・植物育成装置

- 新たに手掛けている植物の水耕栽培と陸上養殖を組み合わせたアクアポニックスなどの受注を獲得したが、森づくりや植物研究用装置が減少し、受注高は前期並み。
売上高は、水辺づくりや野菜の販売が堅調に推移し前期比で増加。

その他事業につきましては、
受注高は前期並みでしたが、売上高は増加し、営業黒字となりました。

市場別売上構成比

■売上高は、電子部品・電子機器市場は約1.2倍、
自動車市場はEV・バッテリーを中心に大幅に増加し約1.5倍、半導体市場は減少



ESPEC CORP.

12

こちらは、エスペック単体の市場別の売上構成比です。

ブルーの電子部品、電子機器市場は、やや一服感があり、
受注高は減少しましたが、売上高は約1.2倍となりました。
比率としては2ポイント低下いたしました。

グリーンの自動車市場は、EV・バッテリーを中心に受注が拡大し、
売上高は1.5倍、比率はプラス7ポイントと、大きく上昇しました。

グレーの半導体市場は、メモリ関連の投資抑制の影響を受け、
受注高・売上高ともに減少し、比率は10%となり、前期比で3ポイント
下がりました。

オレンジの「研究機関」は、民間や国公立の研究機関で、
例年6～8%を占めております。

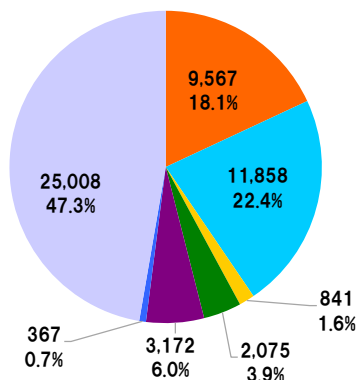
一番下の「その他市場」には、化学、建築材料、食品、化粧品など
さまざまな業種が含まれており、例年20～25%を占めております。

地域別売上構成比

■3期連続で海外売上高比率は50%超。エリアでは欧米の比率が上昇

2022年度

海外売上高比率: 52.7 %

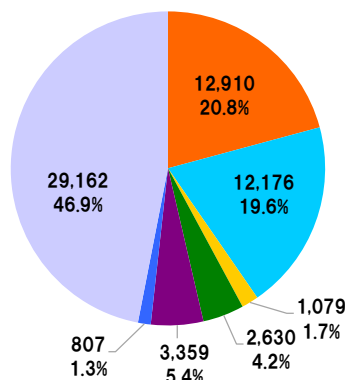


計 52,892百万円

海外売上高: 27,884百万円

2023年度

海外売上高比率: 53.1 %



計 62,126百万円

海外売上高: 32,964百万円

ESPEC CORP.

13

地域別の売上構成につきましては、海外売上高比率は53.1%とさらに上昇しました。

地域別では、北米は、受注高は前期並みとなりましたが、売上高はエレクトロニクスや通信衛星、車載用バッテリー関連の案件があり増加、比率も上昇しました。

欧州は、受注高は減少しましたが、受注残高の売上計上が進み、売上高は増加、比率も上昇しました。

中国については、受注は減少したものの、自動車やバッテリー関連を中心に売上計上が進み、売上高は前期並み、比率としては減少いたしました。

東南アジアにつきましては、インドを含めて集計しており、主にタイ、ベトナム、インドが堅調に推移し、受注高・売上高ともに増加しましたが、比率はやや低下しました。

国内については受注高・売上高ともに増加していますが、比率としては低下しました。

2024年度 業績予想について

■ 業績予想のポイント

- ・受注高は、国内を中心にEV・バッテリー分野の投資が継続、高水準を維持する見込み
- ・カスタム性の高い製品の生産増加を見込んでおり、国内の生産能力増強を図る

■ 想定為替レート

	2022年度	2023年度		2024年度
	通期実績	上期実績	通期実績	通期想定
USD(円)	135.51	141.06	144.59	145

2024年度為替感応度(対ドル1円円安):売上高190百万円増加、営業利益41百万円増加

続いて、2024年度の業績予想についてご説明いたします。

受注高は、国内を中心にEV・バッテリー分野の投資が継続し高水準を維持すると見ております。

一方、カスタム性の高い製品の生産増加を見込んでおり、国内の生産能力増強を図ってまいります。

また、想定為替レートにつきましては、1ドル145円としております。

2024年度 業績予想

(百万円)					
	2023年度	2024年度 予想			
	通期実績	上期	下期	通期	前期比
受注高	62,290	31,000	32,000	63,000	+1.1%
売上高	62,126	30,500	34,500	65,000	+4.6%
売上総利益 利益率 (%)	21,994 35.4%	10,400 34.1%	12,200 35.4%	22,600 34.8%	+2.8% △0.6pt
販管費 販管費率 (%)	15,408 24.8%	7,500 24.6%	8,100 23.5%	15,600 24.0%	+1.2% △0.8pt
営業利益 利益率 (%)	6,585 10.6%	2,900 9.5%	4,100 11.9%	7,000 10.8%	+6.3% +0.2pt
経常利益 利益率 (%)	6,919 11.1%	3,050 10.0%	4,150 12.0%	7,200 11.1%	+4.0% +0.0pt
親会社株主に帰属する 当期純利益 利益率 (%)	4,969 8.0%	2,200 7.2%	3,000 8.7%	5,200 8.0%	+4.6% +0.0pt
1株当たり当期純利益 (円)	227.61	100.77	137.41	238.18	+4.6%
ROE	10.0%	—	—	9.6%	△0.4pt
ESPEC CORP.					15

2024年度の業績予想としましては、受注高は前期と同等の630億円と見ております。

売上高は生産能力を増強し、650億円としておりますが、売上予想の製品ミックスから、原価率を厳しく設定し、営業利益は70億円、営業利益率としては前期比で0.2ポイントの上昇を見込んでおります。また、当期純利益は52億円、ROEにつきましては9.6%の見通しです。

なお、期初の受注残高は、前期と同等の275億円となっております。

2024年度 投資計画

(百万円)

	2023年度	2024年度 予想			
	通期	上期	下期	通期	前期比
設備投資額	2,695	820	2,370	3,190	+18.3%
減価償却費	1,492	790	880	1,670	+11.9%
研究開発費	1,239	660	670	1,330	+7.3%

主な投資内容

- ・新試験所開設、試験設備増強
- ・生産能力増強

主な開発内容

- ・先端技術分野の製品ラインアップ拡充
- ・低GWP冷媒など環境配慮型製品の拡充

設備投資額、減価償却費、研究開発費の計画はご覧のとおりです。
受託試験所の開設や試験設備の増強、また生産能力増強に向けた投資を
計画しております。

環境認識

中国・北米経済の減速懸念はあるが、国内を中心にEV・バッテリー分野の投資継続を見込む

装置事業	環境試験器	日本：EV・バッテリー関連の投資が引き続き好調、IoT関連の投資は堅調に推移すると予想 中国：EV、IoT関連を中心に投資は継続するが、さらなる経済減速を懸念 ASEAN・インド：EV・半導体関連の投資が堅調に推移すると予想 北米：EV・バッテリー、航空宇宙関連は堅調 欧州：前期と同水準と予想
	エナジーデバイス装置	国内で充放電試験用チャンバー・システムが引き続き好調と予想
	半導体関連装置	緩やかに投資が回復すると予想
サービス事業	アフター・エンジ 受託試験・レンタル	アフター・エンジン：前期と同水準になると予想 受託試験：車載用バッテリーの充放電試験・安全性試験が好調
その他事業	環境保全 植物育成装置	植物工場やアクアポニックスが堅調に推移すると予想

ESPEC CORP.

17

こちらは現在のセグメントごとの環境認識です。

中国・北米経済の減速懸念はありますが、高水準を維持すると見ております。

環境試験器につきましては、

日本では、EV・バッテリー関連が好調、IoT関連も堅調と予想しております。

中国は、EV、IoT関連の投資は継続すると見ていますが、さらなる経済減速を懸念しております。

ASEAN・インドは、EV・半導体関連の投資が堅調に推移すると見ております。

北米は、EV・バッテリー、航空宇宙関連が堅調と見ております。

欧州は、前期と同水準と予想しております。

エナジーデバイス装置は、国内で充放電試験用チャンバーやシステムが引き続き好調と予想しております。

半導体関連装置につきましては、緩やかに回復すると見ております。

受託試験につきましては、車載用バッテリーの充放電試験・安全性試験が好調に推移すると考えております。

2024年度 主な取り組み

装置事業

- ・国内の生産能力増強(要員増加、生産スペース拡大、外注活用)
- ・高付加価値製品のラインアップの拡充

サービス事業

アフターサービス:「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大

受託試験 :車載用バッテリーのサービス拡充

試験設備増強、“次世代モビリティテストラボ(仮称)”開設

エリア戦略

日本:EV・バッテリー分野、半導体分野での営業活動強化

北米:グループ連携によるEV・バッテリー分野の需要拡大への対応強化

中国:グループ連携による安定収益の確保

欧州:製品ラインアップ拡充による自動車およびIoT市場の開拓

韓国:グローバル大企業への販売拡大

2024年度の主な取り組みといたしましては、
装置事業では、要員増加、生産スペース拡大、外注活用により国内の
生産能力を増強してまいります。これにより、需要拡大に対応するとともに、
受注残高の早期消化、生産負荷の平準化を進めてまいります。

サービス事業につきましては、受託試験において、車載用バッテリーの
サービスを拡充いたします。栃木県宇都宮市での試験設備増強、
また、愛知県常滑市にて“次世代モビリティテストラボ”を開設予定です。

エリア戦略につきましては、ご覧の通りです。

セグメント別の業績予想

		(百万円)				
		2023年度	2024年度予想			
		通期実績	上期	下期	通期	前期比
装置事業	受注高	53,565	26,900	26,800	53,700	+0.3%
	売上高	53,518	26,600	29,400	56,000	+4.6%
	営業利益	5,848	2,680	3,500	6,180	+5.7%
サービス事業	受注高	7,634	3,700	4,300	8,000	+4.8%
	売上高	7,536	3,500	4,400	7,900	+4.8%
	営業利益	681	250	550	800	+17.3%
その他事業	受注高	1,453	600	1,100	1,700	+16.9%
	売上高	1,455	600	900	1,500	+3.0%
	営業利益	51	△30	50	20	△61.1%
連結消去	受注高	△363	△200	△200	△400	-
	売上高	△383	△200	△200	△400	-
	営業利益	3	0	0	0	-
計	受注高	62,290	31,000	32,000	63,000	+1.1%
	売上高	62,126	30,500	34,500	65,000	+4.6%
	営業利益	6,585	2,900	4,100	7,000	+6.3%

ESPEC CORP.

19

こちらはセグメント別の業績予想です。
装置事業につきましては、受注高は横ばい、生産拡大により、増収増益を予想しております。

サービス事業につきましては、受託試験の拡大を見込んでおり、
受注高・売上高は前期を上回る見込みです。

営業利益につきましては、増収効果に加えアフターサービス・エンジニアリング
の値上げ効果を見込んでおり利益率の改善を目指しております。

その他事業につきましては、ご覧の通りです。

2024年度 ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022～2025年度)の推進
- ・地球温暖化対策:
低GWP冷媒への置き換え、製造など事業活動におけるCO₂排出量削減
- ・生物多様性保全活動:
事業による貢献、「エスペック50年の森」運営による保全活動の推進

■S(社会)

- ・人的資本の最大化:
執行役員・管理職のマネジメント力強化、人事評価制度・教育制度の改革、
コミュニケーション活性化
- ・ダイバーシティの推進:
女性管理職の育成、シニア社員・外国人の活躍推進

■G(ガバナンス)

- ・グループガバナンスの強化:
子会社ガバナンスの強化、内部統制システムの強化

ESGの取り組みといたしましては、
Eにあたる環境については、第8次環境中期計画を推進してまいります。

また、2022年にスタートした生物多様性保全活動
「エスペック50年の森」づくりとして、本年4月に植樹祭を開催しました。
これにより、計3回の植樹祭で1万2千本の苗木を植樹いたしました。
苗木を育て、生物多様性豊かな森を育成してまいります。

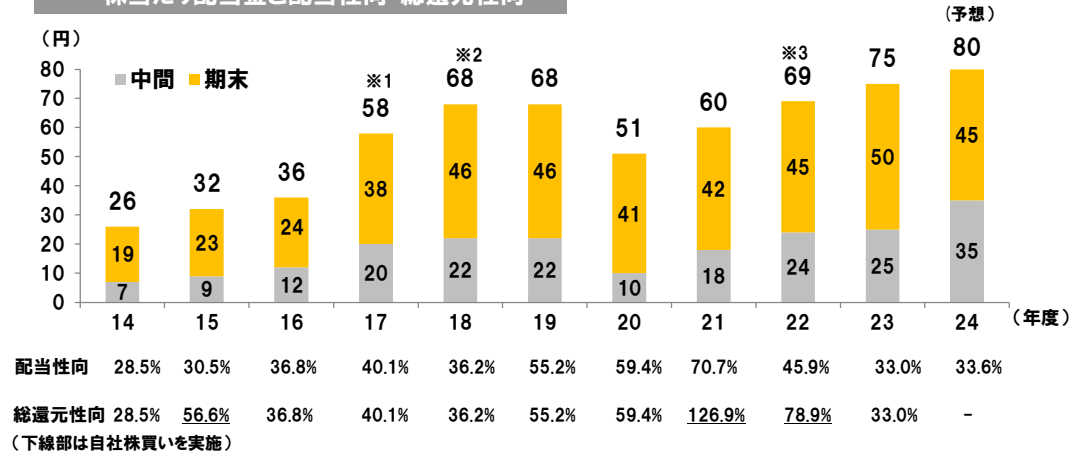
Sにあたる社会については、人的資本の最大化として、
執行役員や管理職のマネジメント力の強化や、社内コミュニケーションの
活性化に取り組んでまいります。

Gにあたるガバナンスでは、引き続きグループガバナンスの強化に
取り組んでまいります。

2024年度 配当予想

■2024年度の配当は年間80円、配当性向33.6%を予想

一株当たり配当金と配当性向・総還元性向



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む
 ※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算。12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)
 ※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

こちらは配当予想です。

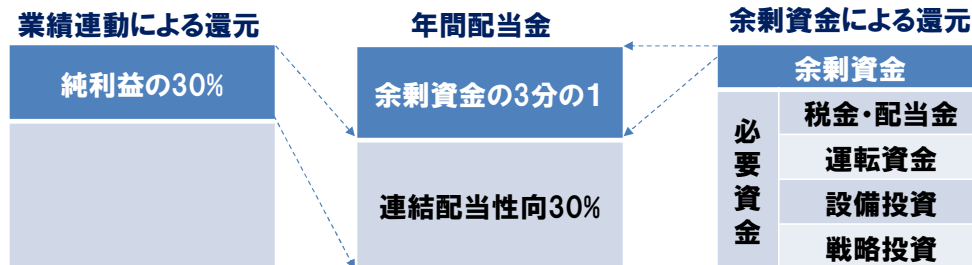
2024年度は、中間35円、期末45円の年間80円を予定しております。

配当基本方針

継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本とする

配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に上乗せする

また、必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する



※安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う

配当基本方針につきましては、ご覧の通りです。

中期経営計画 経営目標の上方修正について

<2024年5月15日開示>

- ・EV・バッテリー向けの投資拡大および円安進行により、売上高・営業利益が当初目標を上回る見通しであることから、経営目標を修正
- ・営業利益率は、部材価格などコストの増加に対応するため製品・サービスの値上げを実施しているが当初予想は下回る見通し

■ 中期経営計画「プログレッシブ プラン2025」 経営目標

※基本方針や経営戦略の骨子に変更なし

	2025年度 当初目標	2025年度 修正目標	(参考)2023年度 実績
売上高	550億円	650億円	621億円
営業利益	70億円	75億円	65.8億円
営業利益率	12.7%	11.5%	10.6%
ROE	10%	10%以上	10.0%

為替レート(USD/円) 2025年度想定115円→145円に修正

ESPEC CORP.

23

続いて、5月15日に開示した中期経営計画 目標値の上方修正についてご説明いたします。

想定以上に、EV・バッテリー向けの投資が拡大したことに加え、円安進行もプラス要因となり、当初の売上高目標550億円は、2023年度に達成することができました。

また、営業利益目標70億円についても、2024年度の達成が見えてまいりました。これを受け、2025年度目標を売上高650億円、営業利益75億円に上方修正いたしました。

この目標数値は、2024年度の計画比で、売上高は同じ、営業利益は5億円プラスする計画です。

2022年度以降、好調な受注を背景に、規模を拡大してまいりましたが、一方で、部材価格などコストが増加していることから、収益性の向上が課題と認識しております。

今後は、内部能力を高め収益力を上げていくことに注力してまいります。
なお、ROEは10%以上を目指してまいります。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

<2024年5月15日開示>

■現状認識

- ・中期経営計画「プログレッシブ プラン2025」(2022～2025年度)にてROE目標10%を掲げており、業績の回復・拡大により、2023年度のROEは10.0%となった
- ・資産の状況としては、2022年度以降の受注拡大に伴い、棚卸資産が増加
- ・当社の株主資本コストは8%程度と見ており、安定的に10%以上のROE確保が重要と認識
- ・PBRは、2023年度末は1.26倍となったが、引き続き株価の維持・向上の取り組みが必要と認識

次に、同じく5月15日に開示しました

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」です。

現状認識といたしましては、当社は経営目標としてROE目標を掲げており、2023年度は業績拡大により上昇し、10%となりました。

一方で、資産の状況としては、受注拡大に伴い、棚卸資産が増加しており、課題認識を持っております。

また、当社の株主資本コストは8%程度と見ており、安定的に10%以上のROE確保が重要と認識しております。

PBRにつきましても、引き続き株価の維持・向上の取り組みが必要と認識しております。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

■方針

- ・中期経営計画「プログレッシブ プラン2025」の2025年度目標
売上高650億円、営業利益75億円、営業利益率11.5%、ROE10%以上の達成を目指す
- ・持続的成長に向けた成長投資を実行する
- ・総資産の増加抑制と投下資本に対する効率を高めることでキャッシュを創出し、
成長投資や株主還元を活用し企業価値向上を図る

■主な取り組み

- ・EV・IoT分野をターゲットとした成長戦略の実行、収益力の強化
- ・積極的な成長投資(事業・設備・研究・人材)と投資効果の明確化
- ・棚卸資産の圧縮によるキャッシュの創出および成長投資や株主還元への投入
- ・株式市場での評価向上および経営強化に向けた株主・投資家との対話充実

方針といたしましては、中期経営計画の目標達成に向けて成長投資を実行してまいります。

また、総資産の増加抑制と投下資本に対する効率を高めることでキャッシュを創出し、成長投資や株主還元を活用してまいります。

主な取り組みといたしましては、EV・IoT分野をターゲットとした成長戦略を実行し、収益力を強化するとともに、投資効果の明確化を図ってまいります。

また、棚卸資産の圧縮に努め、成長投資や株主還元を行ってまいります。

さらに、株主や投資家のみなさまとの対話の充実を図り、対話の内容を当社の経営強化につなげてまいります。

TOPICS 1

“次世代モビリティテストラボ(仮称)” 愛知県にて新試験所の建設に着手

- ・2023年8月、愛知県常滑市に土地(7,500㎡)を購入し、新試験所の建設に着手
- ・大型化・高容量化が進む最先端の車載用バッテリーの安全性試験に対応
- ・国連規則ECE-R100等、各種試験規格に対応
- ・2025年2月開設予定



“次世代モビリティテストラボ(仮称)”イメージパース

バッテリー安全認証センター 受託試験設備を拡充

- ・車載用バッテリーの安全性試験需要に対応するためバッテリー安全認証センター(栃木県宇都宮市)の試験設備を増強
- ・2023年度は、充放電試験設備や釘刺し試験設備を20台設置



バッテリー安全認証センター
(宇都宮テクノコンプレックス内)

次に、TOPICSですが、愛知県にて新しい受託試験所の建設を進めております。
2025年2月の開設を予定しており、大型化・高容量化が進む
車載用バッテリーの安全性試験に対応してまいります。

栃木県宇都宮市のバッテリー安全認証センターにおいても試験設備を
拡充しております。

TOPICS 2

「熱変形計測システム」 販売・計測サービス開始

- ・2024年1月、温度環境下における半導体パッケージや実装基板の反り変形を可視化する熱変形計測システムの販売・計測サービスを開始
- ・消費電力や発熱の増大による実装基板の接合不良の課題解決に貢献



熱変形計測システム

半導体検査装置 高発熱負荷対応 「バーンインチャンバー」拡充

- ・2023年3月、 -20°C ～ $+150^{\circ}\text{C}$ において許容発熱量を4倍(当社従来装置比)に拡大したバーンインチャンバーを拡充
- ・半導体が高発熱状態でも精密に温度制御可能
- ・検査量を大幅に増加、検査時間短縮に貢献



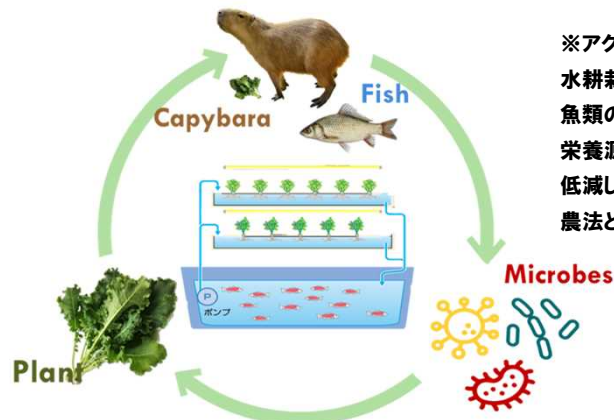
高発熱負荷対応「バーンインチャンバー」

また、ご覧のとおり、先端技術分野の製品ラインアップを拡充しております。

TOPICS 3

エスベックミック 川崎水族館（カワスイ）にて アクアポニックスを活用した共同研究を開始

2023年6月、エスベックミックが川崎水族館(カワスイ)、日本大学生物資源科学部 熱帯資源作物研究室と、アクアポニックスを活用した物質循環システムの実証実験に関する共同研究を開始



※アクアポニックスとは
水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせたシステム。
魚類の糞尿を微生物分解させ、野菜生育に必要な
栄養源として活用。化学肥料を使用しない、または
低減した野菜生産が可能。近年、環境に配慮した
農法として注目が高まっている。

「アクアポニックスを活用した物質循環システム」イメージ図

こちらは、その他事業のトピックスです。
川崎水族館にてアクアポニックスを用いた共同研究を行っております。

社外からの評価

■2024年

3月・CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」
2年連続で最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」

2月・CDP 気候変動分野で4年連続「Bスコア」、水セキュリティは「C-スコア」
・東洋経済新報社「2024年版CSR企業ランキング」375位

■2023年

12月・「Gomez IRサイトランキング2023」銅賞（業種別27位）
・「大和インターネット IR表彰2023」優良賞
・「2023年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト
11月・日本経済新聞社「第5回日経SDGs経営調査」3.5つ星
・日本経済新聞社「第7回日経スマートワーク経営調査」3つ星
10月・日刊工業新聞社（経産省後援）「第19回企業力ランキング」157位
8月・「Gomez ESGサイトランキング2023」優秀企業
6月・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に初選定

■ESG指数組入れ

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index（2022年4月初選定）



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

こちらが最後のスライドですが、当社はご覧のような
社外からの評価を、社内の改善・改革に活かしてまいります。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。

【お問い合わせ先】

エスベック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川

IR・広報グループ 大川・貝川

以上をもちまして、私からのご説明を終わらせていただきます。
ご清聴ありがとうございました。

Quality is more than a word

ESPEC